

サロンあべの

VOL.188

人生いろいろ、輝いて生きよう

車いすから見えてきた、
新しい価値観と
さまざまな思い

△サロン・あべの△1月の出会い

平成13年1月19日(土)、△サロン・あべの△1月の出会いは、「サロン・にし」の代表をされている宮脇淳氏にご自身の「過去・現在・未来」を「人生いろいろ 輝いて生きよう」車いす

から見えてきた、新しい価値観とさまざまな思い」と題してお話していただきました。

・障害を背負ったころ

大学一年の時、交通事故で頸髄を損傷した。入院して一カ月ほどしたら治ると思っていたのが、体は思うように動かない。医者に直接聞いたところ、一生車いす生活だと言われた。あまりのショックで、精神的に落ち込み、失望、幻滅、自殺願望などで周囲の人に当たっていた。だが、同じ頸髄損傷で入院してくる人たちは、社会復帰できるような懸命にリハビリを続けている。その人たちに出会って、自分を見つめ直すことができた。

大切さへの感謝に気づく。

・自分の障害の受け入れ

最初のころは、見舞いに来てくれた友人にも会わないで断っていた。それは自分の姿を見られるのが恥ずかしい。人に見られたくない。人と会いたくない。自殺したいという思いからだった。周りの人や仲間のおまじや頑張りを受けて、今の自分自身の身体状況を認める。否定しない、当たり前と思う、障害から逃げない、しっかりと受け止めるプラス思考へ、転換してこういうと考えるようになり、立ち直ることができた。

・図書館通い

これからの自分は「何がしたいのか、何を思っているのか、



宮脇淳さんに元気をもたらした1月の出会い

「何ができるのか」と自己模索が始まる。退院後、何もすることがなく俗に言う「ブー太郎」を

一年半ほど過ごす中で毎日図書館へ行く。ジャンルを問わず、

とにかく一年半で約一五〇〇冊を読みあさった。この図書館通いが、今から考えると人生の充電期間になっていた。

「最初は小さな粒の集まりでも、その小さな集まりがあるからこそ、大きな力となり大きな波に

なる」という事を本から学んだ。

・現在の社会参加活動

小さな力であるけれども、自分自身が車いす使用者の当事者であるからこそ、社会へ発信しアピールできる事がある。自分が外出し、多くの方々と知り合うきっかけを作る。障害者自身が社会参加することが何よりも大切である。そこから地域の身近な人々と交流する「気さくなレクレーションサークル」が発足し、それが新たに「サロン・にし」となった。また、同じ障害のサークル・グループにも参加している。その他に「自立生活センター・なにわ西」を立ち上げ、障害者の日常生活支援活動をしている。その中で五つの「愛」を大切にしている。「助け合い・分かち合い・ふれあい

・励まし合い・許し合い

・これからの夢

「自立生活センター・なにわ西」の重度障害者の自立に向けた活動を充実していきたい。また、海外の障害者の状況を以前勉強したことがあるので、その時の経験を生かして余裕ができれば、海外生活を二、三年楽しみたい。

・ちょっといい話

また、障害に対しての話として「最近のちょっといい話」をされた。

□「車いすとメガネ」

車いすもメガネも必要としている人には、生活するために肉体の不都合部分を補う便利な物であって、どちらも特

別なものでない。

□声をかけることの大切さ

車いすや白杖を使用している人を見かけた時、「お手伝いしましょうか」と声をかけて、その人の答が「お手伝いはいりません」であっても百点満点の手伝いをしているのである。つまり、最初に声をかけない限り、何も始まらないのだから、するしないに関わらず声かけの大切さを知ってほしい。

人生は何が待っているかわからない。生きるか死ぬかの狭間の中で、人は強くなりやさしくなることを気づかされた、そして元気をもらったハサロン・あべのV1月の出会いでした。

参加者24名(山村貴司)

障害者の雇用と 就労を考える

9

障害者の雇用就労

—2—

茅原聖治

割当雇用措置によれば、正当な理由なく法定雇用率に達していない企業や事業所に対しては雇用納付金(障害者一人当たり月額五万円)を徴収し、さらに勧告に従わなければ当該企業は公表され、社会的制裁が加えられるという、企業にとっては非常に厳しい内容となっている。一方、法定雇用率をクリアしている企業には、雇用調整金(常用労働者三〇〇人超の企業で、障害者一人当たり月額二・五万円)、報奨金(常用労働者三〇〇人以下の企業で、障害者一人当たり月額一・七万円)や各種助成金が支給され、税制上の優遇措置もとられる。

重度障害者の場合は一人をダブルカウントして二人として雇用率計算できるようになり、また平成九年の改正では、身体障害者に加えて知的障害者も雇用率に含むことができるようになっていく。

このような法定雇用率の制度の下、実際の障害者雇用はどうか。平成一一年の厚生労働省の調査によれば、民間企業における雇用障害者数は二五万四五六二人で、この数千人単位という漸増ではあるが増加の傾向にある。実雇用率は一・四九%でそれも増加もしくは横ばいの状態にある。企業規模別に実雇用率を見ると中小企業で雇用率が高く、大企業ほど雇用率が低いという傾向は変わらず存在する。また、業種別で見ると、製造業、電気・ガス・熱供給・水道業、運輸・通信業、農・林・漁業で雇用率が高く、卸売・小売・飲食業、金融・保険・不動産業、建設業で低くなっている。このように、一見障害者雇用は進展しているように見えるが、法定雇用率未達成企業の数は六万一一三社で、その割合は五五・三%にも上っている。つまり五割以上の企業で雇用納付金を払い、公表されるイメージダウンの

リスクを負うにも関わらず、障害者を雇わないという企業がまだ少なくないことを示している。

特に重度障害者はフルタイム労働が不可能であったり、その業務に制限がある場合があるので、一般企業での就労ができないが、なんらかの支援があれば労働能力を発揮できる障害者に対して、「保護的就労」という就労形態が用意されている。これは日本では「福祉工場」に代表されるもので、社会福祉法人による経営であったり、民間企業と国・地方自治体との共同による第三セクター方式が採られているものが多い。この保護的就労は一般雇用と次回取り上げる授産施設における就労との中間に位置するもので、雇用・労働条件は一般雇用に準じるため、労働関係法に定められた労働者の権利が認められている。二千人超の障害者がこの労働形態で就労している(平成一〇年厚生労働省調査)。

ここまで紹介した雇用形態は、賃金・労働時間や福利厚生、社会保険などの面で障害者も通常労働者と同等に扱われるが、現在の不景気や社会における偏見などから狭き門になっていると言わざるを得ない。

★福祉の難問

物理学や医学は難しいと多くの人が思っていることだろう。しかし、同じように社会福祉が難しいと考えている人は少ないにちがいない。

実際、物理学の複雑な数式を見せられても、私たちの多くはそれが何を意味しているのかは理解できないし、難解な医学用語で綴られた文章は、たいていの人にとつては呪文のようなものであろう。

それに比べると社会福祉の書物は優しいイラスト入りで書かれていることがあるし、社会福祉は一般市民がボランティアとなり専門知識なしで大きな活躍をしている分野でもある。したがって、学問としての社会福祉も誰にでもわかる初歩的なものと考えられていることがある。

だから、私が大学で社会福祉を教えているという^{けげん}と怪訝な顔をする人がある。まして社会福祉の研究という^と、もっとわかりにくくなるのかもしれない。社会福祉の問題は要するに、そこに十分な予算をまわせ

ば、それで大部分は解決すると単純に考えられているような気がするのである。

しかし、私の目から見れば、社会福祉はわからないことだらけだ。たとえば地域福祉には市民の参加が不可欠だと、いろんな新聞が書き、書物にも書かれてあるがいったいどうやって市民の参加を求めるのか。そういうことがさっぱりわからないのである。



M:

以前、地域福祉について市民が参加する集会を開くからということで、行政や社会福祉協議会が準備した会議に出席したことがある。会場には四、五十人の人たちが空席ひとつなく座っていたが、ほとんどは町内会の会長たちだった。話し合いといっても、会議の主催者が説明し、それに対して儀礼的に数人が質問と発言するだけであった。あまりに退屈な会議であったが、次の月の関係機関の広報紙には「活発な議論がかわされた」という見出しとともに、びっしりと出席者が並んでいる写真が掲載してあった。

これが市民参加と言えるだろうか。しかし、あれほどの人数のなかで細かい議論ができるわけではないから、あれはあれで仕方なかったのだろう。問題は他に方法がなかったのだろうかということだ。

五、六人で構成される小委員会をつくって、そこで議論をしてみようというのはよく使われる方法だが、その五、六人をどう

朗読テープのご案内

朗読グループ「糸でんわ」のご協力で(サロン・あべの)紙第187号の録音テープが出来ました。

■朗読テープ文庫

- (a) 〈サロン・あべの〉紙は、第1号より第187号までそろっています。
- (b) 〈サロン・あべの〉十周年記念誌「はーとが、はろー!」
- (c) 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)
- (d) 「ラジオたんぱ」放送「〈サロン・あべの〉平成7年5月の出会い」放送分(30分)
- (e) エッセー集「逃げた『ヨナ』～ボランティア活動の周辺～」(岡本栄一著＝糸でんわ音訳)
- (f) 「キミたちだけじゃ困るんだ～身障者だけで旅した十余年～」(山田誠1995・2・22著＝糸でんわ音訳)
- (g) 「金子みすずへの旅」(島田陽子著＝糸でんわ音訳)
- (h) 「夕やけ空のオニヤンマ」(牧口一二著＝糸でんわ音訳)
- (i) 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子著＝糸でんわ音訳)
- (j) 「セルフヘルプグループ」(岡知史著＝糸でんわ音訳)
- (k) 「名物 天王寺かぶら」(猿田博創作 難波利三監修＝大阪市立天王寺図書館制作)
- (l) 「知らされない愛について」(岡知史著＝ぼけっと音訳)
- (m) 「愛 ひとり旅」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (n) 「奥田真祐美のシャンソン手帳」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (o) 「もうちょっと知っとく? 私たちの阿倍野」(難波りんご著＝糸でんわ音訳)
- (p) 「猫とシャンソン」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (q) 「ほんの少しの神に近い部分」(岡知史著＝糸でんわ音訳)
- (r) 「勁くしずかに」(河野勝行編・著＝糸でんわ音訳)

ご希望の方には、ダビング、または貸し出しをします。富田(☎06・6691・1028)まで。

やって選ぶかという問題が新たに出てくる。自分たちでやりたいという積極的な人を選んでも、その人たちが大きな全体会で認められない可能性もある。つまり、住民の代表として地域の問題を考える会議に出席したいと言っても、住民が彼らを代表として認めないかもしれないのである。政府も行政も住民を地域福祉に参加させていこうという方針のようで、その方向に予算もついてきた。しかし、では、どうやって参加してもらおうのか、どうやって、それを促すのかという方法については、ほとんど誰も論じていない。論じていても、たい

てい自分の経験に基づき思いつきを言っているにすぎないように私には聞こえる。とはいえ、私はそれを非難しているわけではない。誰もどうしてよいのかわからないのだと思う。それを考えたくても考える方法が見つからないのである。謎は宇宙の果てや海の底だけにあるのではない。誰にでも身近であり、入ろうと思えばいつでも入ることができる地域福祉の分野にも、宇宙の果てと同じくらい謎がある。ただ、その謎を謎とも思わない人が多くいるという違いがあるだけなのだ。(知)

鍋料理

二月は一年でいちばん寒い月。雑誌の料理記事は申し合わせたように鍋料理が並び、魚屋の店先にはあんこう、かわはぎ、ほうぼう、たらと鍋に美味しい魚が並ぶ。なにがなんでも「かるた」です。

解説付き かるた冊子一五〇円

「赤バス」運行開始!

うえひら☆ゆきお

先月27日から、小型ノンステップバス、愛称「赤バス」の路線が大幅に増えました。もちろん阿倍野区内でも、阿倍野ループというコースの運行が始まりました。詳しいことは、大阪市交通局のパンフレットなどを見ていただくことにして、今回は、実際に乗ってみた感想を書いてみたいと思います。

乗ったのは、運行開始初日の27日(日)でした。地下鉄昭和町から乗り込み、あべの橋まで。帰りは、阿倍野区民センターから阪南パラドームまで乗りました。運行初日ということもあつたのでしょうか、かなり不満の残る初体験でした。

ぼくの自宅は、阪南町2丁目ですから、最寄り駅は、地下鉄の昭和町ということになります。この駅にもエレベーターがありますから、車いすでの利用は可能です。でも、天王寺や西田辺などに行く場合、近すぎて、降りる駅への連絡が間に合わないことがあります。駅員がいなくても、なんとかなるものですが、ひとりで降車するのはやはり不安です。そこで、つい

つい地下鉄を避け、車いすをこいで(歩いて)行ってしまふことが多かったのです。その点、今回運行を始めた「赤バス」は、その微妙な距離を結んでくれる乗り物として、大いに期待をしています。買い物や映画、図書館などに行くとき。もちろん(サロン・あべの)への参加も楽になると思います。それに、自宅から庚申街道を挟んだ斜め向かいにバス停があることにも、大きな魅力を感じています。

「赤バス」の特徴は、乗り降りの際に車体が下がることにはずです。でも、実際に乗ってみて感じたことは、「下げてない人と違うかな?」という疑惑でした。少なくともぼくの目からは、下がったようには見えませんでした。さらに、ステップの下から金属の板を出してくれたのですが、その角度がきつくて、とてもスロープと呼べるようなものではありませんでした。雨でも降っていようなものなら、滑って転倒する危険性が非常に大きいと思いました。そんな不安を感じつつ乗り込んでみると、なんと、バスの中に簡易スロープがあるではないですか。地下鉄の駅にあるものと同じものです。これを見たときに、ものすごく腹が立つてきました。「これを使ってくれれば、もっと安全に乗り込めたのに...」。当然、降りるときには、この簡易スロープを使ってくれるよう運転手に言いました。ところが、その使い方を、運転手がまったく知らなかったのです。ぼ

く自身が置き方を説明して、なんとか降車しましたが、もう怒りを通り越して、情けなくなりました。そして、帰りの「赤バス」でも、当然、簡易スロープを使ってもらえるように言いましたが、運転手自身が手伝うということ、断られてしまいました。「何のための簡易スロープやねん?」と思いつつ、運転手と喧嘩をする気力も失せていました。

運行初日でしたし、たまたま運が悪かっただけかもしれませんが、運転手への研修不足、運転手自身の怠慢としか思えない体験をしたのも事実です。「赤バス」が、日常生活の足として期待されているだけに、改善を呼びかける必要があると思いました。それと同時に、バス停付近への路上駐車をなくすることも必要です。せっかくのノンステップバスも、歩道にびったりと寄せてもらわないと、その効果が半減してしまうからです。話しは少し違いますが、同じ障害者の中にも、駐車禁止除外の標章があるからといって、バス停などに堂々と自動車や駐車をしている人がいます。要求すべきことはするとして、自らのモラルも正したいものです。

「赤バス」は、その構造や特徴をよく理解した上で、上手に利用できれば、ものすごく便利な乗り物です。どんどん利用して、さらに利用しやすく安全な「赤バス」にしていきましよう。

運転士や乗客のみなさんの
理解と手助けがあれば……

1月31日、運行間もない「赤バス」を利用して阪南町で一つ用を済ませて、阿倍野図書館へ、グルッと阿倍野ループを二回りしてきました。

途中、乗り合わせた人たちは、ちよつと買い物に便利、段がないから乗やワ、自転車みたいに手軽や・・・一応に利点は認めているようでした。その通りだと思えます。それが車いすで、となるとちよつとね。

スロープの傾斜がきつく昇りにくいのと、登り切つてすぐ右45度くらいにハンドルを切つて乗り込むのですが、料金収納箱と入り口の柱との間隔が車いすの幅ぎりぎり、向かい合つた座席を跳ね上げないと方向転換は出来ません。くの字にハンドルを切つて、急勾配をバックで降りて来た脱輪防止柵のないスロープを見返つて、ヒエッツ（ムンクの叫び）。

とは言うものの、電動であれ、手押しであれ、運転士や乗客のみなさんの理解と手助けがあればなんとか。理解と手助けがあれば……

言い忘れてました。月末で、図書館はお休みでした。

(石)

ききみみすきん

阿倍野に新しい顔 二つ

△サロン・あべのVが所在地としていた阿倍野区に、このたび新しい顔が二つできました。その一つとしてループバスが一月二七日から走り出しました。赤バスや百円バスという愛称で市内の数カ所では早くから運行されていたそうです。このバスは区役所を始発として南下し区内を一周しています。そして、サロン開催場所である育徳会館の停留所もあり、利用していただけのものでと思つていました。先日、区役所から電動車いすで乗ってみました。乗車口にスロープが出てきますが、急で介助なしでは乗降が難しい感じがありました。が、乗り合わせた人からは「便利になって良かったわね」と言っていたいただき嬉しく思

いました。このバスは、昨年暮れに開所されたもう一つの顔である区民センターにも停車します。ここには大小のホール、和室や会議室もあり、三階は図書館になっています。エレベーターが利用でき、車いすトイレは各階に完備。一階ロビーでは福祉の店のコーヒーショップが開店、待ち合わせの場所にもよいかと思えます。一月二六日に、この区民センターで阿倍野区社会福祉協議会設立五〇周年記念大会が開催され、△サロン・あべのVは十八の活動グループ方と共に感謝状を授与されました。これは長年ご支援ご協力くださっているみなさまの温かいお心が表されたものと思えました。感謝申し上げます。

(け)

梅

たしか、お天気の長期予報で「この冬は暖冬です」と言っていたが、例年通りやはり寒さがきびしく、北海道や日本海側の各地では何十年ぶりの大雪になっっている。

それでも寒の内だというのに割合暖かい日が続いていたので九州や四国から梅が咲き始めたという便りが届き、確実に春が近づいているを感じた。

歳時記によると、春の魁として開く梅の花は、古来詩歌の対象として親しまれてきた。紅梅、薄紅梅、白梅、枝垂梅など種類も多いが、そのなかでも野梅はもっとも多く分布している梅である。

朝から春のような青空が広がり、ぽかぽかと暖かかった二月のある日、私は妻に車いすを押

晴れのち晴れ

④1

稲垣 恵雄

してもらって近くの梅林へ梅を見に行った。その梅林は山手なので勾配がきつくて登って行くのが並大抵の苦勞ではなかった。妻はハアハア息をはずませながら車いすを押してくれていた。私、私は時々、ふり返って「なんだ坂、こんな坂。なんだ坂、こんな坂……」と言いつつながら彼女を励ました。

かなりの時間をかけてようやく梅が咲いている場所へたどり着いた。そこも急斜面だったので、車いすのブレーキをしつかり止め、私は少し身体を傾けながらちらほら咲き始めた梅をながめた。顔をそばへ近づけると、何ともいえない梅の花のかぐわしい香りが漂ってくる。

「ほんと、良いにおいやわ」
妻も疲れを忘れて、梅の花に見入っていた。

ポポルの一座
パベット パフォーマンス
ライブショー

「ポポルの一座」の初ライブを、スペインのゲストを迎えて開催します。どうか、お誘い合わせてご来場ください。

□日時 3月17日(日)午後2時開演

□場所 国際障害者交流センター
ビッグ・アイ 大研修室

堺市茶山台1-8-1

☎ 072-290-0900

□交通 泉北高速「泉ヶ丘」下車
徒歩3分

□内容 おとなのための腹話術
もちろん、子どもたちも……

腹話術の漫才、マリオネット、
大道芸、ひとり芝居

□ゲスト

・チャタリック 谷本丹津子

・マジシャン C:Deen ツツイ

□チケット ¥1000

(ペアチケット ¥1800)

□チケット申し込み、問い合わせ先

ポポルの一座 ポポル・伊佐

☎・FAX

072-291-0862

Eメール

poporu-isa@par.odn.ne.jp

植物あれこれ

第三十七回

山口康二郎

春はすぐそこ

一月二〇日は暦の上で「大寒」、一年で最も寒いとされる日でしたが、その日の夕方ニューズでは紀伊田辺市の梅林で二本の梅が開花した様子を中継していました。それをご覧になった二年越しで私の園芸講座を受講されている平野区の〇さんから



「先生あれは狂い咲きですか」と電話が入った。記憶の良い皆さんは以前、桜にちなんでこのことを述べたことがありますので、お解りと思いますが、気温の悪戯としか言いようがありません。今年のお正月は例年より寒く、その反動か十日前後は暖かい日が続き、年初より十度以上高い日があり、それが梅の開花に繋がったのです。二本の梅の木は「老木」だとも報道されました。一般に花木は若木より老木の方が早く咲くことも知られています。他の植物に先駆けて咲く梅は全体にふつくらとして春近しを感じさせてくれます。しかし、ほとんどの植物は冬籠りの真つ最中です。道端のタンポポ・ナスナなどは地面にへばりついていきます。葉を放射状に広げ、しおれたようになっていきます。バラ(ロゼ)の花のような形から「ロゼット」と呼ばれるこの形は、植物が厳寒期を生きる知恵なのです。土地にへばりつくことで地熱を利用し、放射状に葉を

広げることで、冬のわずかな陽光も効率よく浴びるようにし、葉の凍結を防ぐために水分を極限まで少なくして、春を待っているのです。

植物にとつては間もなく春がやってきます。節分が過ぎれば、確実にすべての草花は動き始めます。この拙文が皆さんのお目にとまる頃は、その動きがあちこちで見られることでしょう。

それに比べ日本の不景気という冬は、いつ春を迎えるのでしょうか。まだまだ耐え忍ぶ冬が続くような気配がしているのは私だけでしょうか。



感

謝



カンパ、切手、はがき、お茶、お菓子等、またサロングッズのお買い上げをありがとうございました。

秋山紀美子、太田博、大野淑、岡賀寿子、笠原美和子、黒羽玲子、澤田妙子、鈴木昭二、関幸子、富田万里子、中村真典、野田玲子、松村順子、和田保子、吉原和郎、その他

美智子のこんな話

岸田美智子

どう考える？同性介助問題

これまでの障害者運動の中で、一貫して訴えてきた事のひとつに同性介助問題がありました。日常生活の中で、介助の必要な重度障害者は、在宅や施設の中で大人の男性として、女性として扱われてこなかった問題があります。特に重度女性障害者への介助減らしのために、強制的な子宮摘出問題は優生保護法とからんで、大きな社会的問題になりました。

このような私たちの活動の中で、介助現場において、同性の介助を基本にしてきま

した。そして最近、自分たちで行政からの委託をうけ、介助者派遣事業に取り組み、いつでも、どこでも、誰にでも、必要なだけ介助を提供する介助者派遣サービスを展開してきました。

そして、私たちと関わりがなかった一般の障害者の皆さんにも、このサービスを利用していただいています。その中でこの同性介助の考え方が壁になって、逆にサービスを利用してもらえないケースが増えています。特に母子家庭で、母親が男子の障害者の介助を一手に担ってこられたケースの家庭の場合、母子どちらからも女性介助者を派遣してほしいと言われる事が多いです。父親がおられるケースであっても、介助は女性がするものという考え方があり、女性の介助者を希望されます。特にお風呂介助やトイレ介助が必要な場合、私たちが困ってしまった状態です。仕事だと割り切って医師や看護婦のような専門職だとして、行っていく事もできるし、介助者の側もこのような意識をもっている人が多いようです。

でも、やはり私たちは障害者・当事者の

立場を忘れずに大切にしていきたいと思えます。当事者側も割り切れる人もいるかもしれませんが、やはり恥ずかしさや屈辱的な気持ちが残ってしまうのではないのでしょうか。特に最近も続いている女性障害者へのセクハラ問題を予防するためや、社会的に女性として、男性として、よりその人らしく生きていけるために、まだまだ同性介助が必要な場面があるのではないのでしょうか！ もちろん理想的には、当事者である障害者が同性介助がよいか、異性介助がよいかをいつでも選ぶ事ができる事が一番だと思われれます。このような自己決定、自己選択ができる力を取り返していくための支援の具体的な取り組みが今こそ必要なのだと思います。

皆さんは、どう思われますか？
いろいろな意見をお寄せください。

【連絡先】

自立生活センター：まいど
担当 岸田

TEL 〇六 一六六 〇九 一三二 一三三
FAX 〇六 一六六 〇九 一三二 一〇〇



サロン隣組ニュース

■「サロン・淀川」3月の出会い

日時: 3月17日(日) 午後1時30分~4時
 場所: 淀川区民センター「やすらぎ」
 大阪市淀川区三国本町2-14-3
 内容: 浅田次郎原作『鉄道員』のビデオ鑑賞
 直木賞受賞作品。鉄道員としての誇りを持って生きてきた佐藤松の一生。平成11年6月公開作品。
 高倉健・大竹しのぶ・広末涼子他

会費: なし
 問い合わせ先: 淀川区社協 (ボランティア・ビューロー)
 ☎ 06-6394-2900
 E-mail: kubota53@mbx.inet-osaka.or.jp

■「サロン・ひらの」3月の出会い

日時: 3月24日(日) 午後1時30分~4時
 場所: にこにこセンター (大阪市平野区平野東2-1-30)
 内容: 未定
 参加費: 1人200円 (お茶菓子代他)
 問い合わせ先: 平野区ボランティア・ビューロー
 大西 ☎ 06-6795-2200

■「サロン・にし」3月の出会い

日時: 3月9日(土) 午後1時30分~3時
 場所: 西区ボランティア・ビューロー室
 大阪市西区新町4-5-14 6階 (西区役所隣)
 地下鉄=西長堀駅4A号出口からすぐ
 市バス=地下鉄西長堀駅からすぐ
 内容: みんなで春のポストカードを作ろう!
 ~どなたでも、お気軽に参加してください~
 会費: なし
 問い合わせ先: 宮協 ☎ 06-4394-5353

■「ウイズ東淀川」3月の出会い

日時: 3月10日(日) 午後1時30分~4時
 場所: 東淀川在宅サービスセンター ほほえみ
 大阪市東淀川区菅原4-4-37
 ☎ 06-6370-1630
 内容: 社協一筋有余年 福祉の話 裏表
 講師: 竹村安子氏 (大阪市ボランティア情報センター主幹)
 会費: なし
 問い合わせ先: 鈴木昭二 ☎ 06-6340-3082
 FAX 06-6340-3012

■「サロンのたみ」3月は休みです。

お知らせ

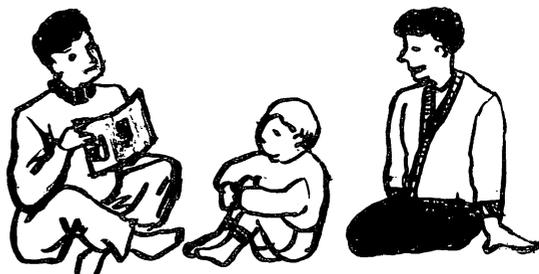
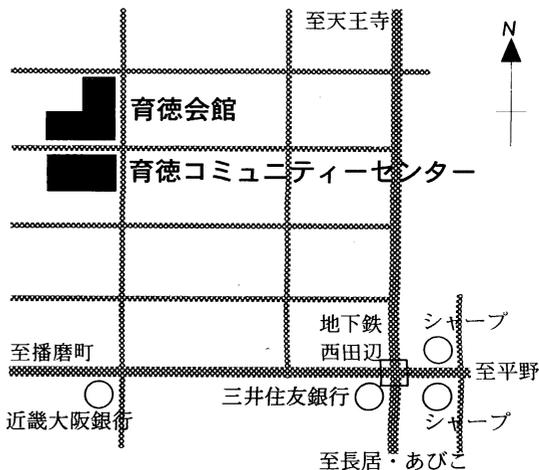
<サロン・あべの>3月の出会い

日時: 3月16日(土) 午後1時~4時
 場所: 育徳コミュニティセンター2階
 研修室(スロープ・車いすトイレ有)
 [大阪市阿倍野区阪南町5-15-28
 TEL 06-6621-1901]

- ・最寄り駅=地下鉄御堂筋線「西田辺駅」
- ・赤バス(阿倍野ループバス)=
「育徳会館」下車すぐ

内容: 「ある本を読んで」
 パネラー…稲垣恵雄氏
 「晴れのち晴れ」本紙連載中

会費: なし
 問い合わせ先…
 TEL 06-6691-1028 (富田慶子)



電話は早い、ファックスも
Eメールもある
けど、こころ伝わる
サロンの絵はがきが、いい。

サロンの絵はがき

五枚一組 一八〇円

一九九一年九月三日第三種郵便物認可(毎日発行)

FROM EDITOR 編集後記

音訳グループの「糸でんわ」さんなどに、毎月の本紙やサロン文庫の音訳をお願いして、目の不自由な方に朗読テープの貸し出し・ダビングをしています。「…しながら、聞けるから、ええんよ！」と晴眼者からの利用申し出もあります。「糸でんわ」さんのご協力で、新たに、河野勝行 編・著「^{つよ}勁くしずかに」が加わりました。ご利用ください。(石)

編集人；サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>Vol.188[H.14. 2.16.発行]定価¥100.
代 表；山村貴司〒546-0033 大阪市東住吉区南田辺5-1-18 TEL06-6691-9071
連絡先；富田慶子〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 TEL・FAX06-6691-1028
表 題；井上憲一・筆 文中イラスト；石田美禰子
郵便振替口座；サロン・あべの 00950-9-26941
印 刷；セルフ社〒546-0044 大阪市東住吉区北田辺町4-23-2ミスターDEビル2F TEL06-6719-8212